

夏冬60℃の過酷な気温差を忘れてしまいそうな均一室温。



外から見ても、サンルームが印象的なK邸です。



弟子屈町 2006年新築

Kさんご夫妻
(会社経営・60歳)

FASUser 4



玄関も、陶芸作品が並び
ギャラリーの風情。



リビングの壁には油絵が掛けられ、陶芸作品を飾る棚もつけてあります。

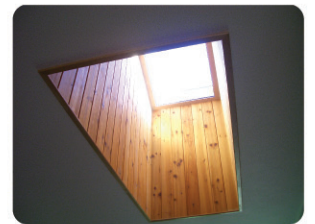
3畳ほどの「サンルーム」は、真冬も真夏も花ざかり。保温などの手間もいらず気苦労が減りました。



この地区は、弟子屈町内でもひときわ冬のしづきが厳しいことで知られており、マイナス30度まで下がる朝も少なくありません。一方、夏は30度まで上がることもしばしば。そんな寒暖の差が激しい気候ながら、Kさんは室内ガーデニングも楽しんでいきます。「以前の冬でしたら、毎晩花の鉢植えを氷点下の寒さから守ることで一苦労でしたが、『ファースの家』にして、花用

居間の暖房機の前だけ温

この地区は、弟子屈町内でもひときわ冬のしづきが厳しいことで知られており、マイナス30度まで下がる朝も少なくありません。一方、夏は30度まで上がることもしばしば。そんな寒暖の差が激しい気候ながら、Kさんは室内ガーデニングも楽しんでいきます。「以前の冬でしたら、毎晩花の鉢植えを氷点下の寒さから守ることで一苦労でしたが、『ファースの家』にして、花用



ダイニングの天井に作られた
天窗から陽光が。

のサンルームも設置したのもう安心」と、奥様の。またこのサンルームは室内に陽ざしを取り込むので、冬はあまり暖房を使わなくてもリビング室温は25度くらいになります。そして夜遅くになっても2度程度しか下がらないというので、そのすぐれた保温性が分かります。

また、外はジリジリと暑い夏の日も、家に入れば涼しく空気はサラサラ。一方、冬の夜や早朝はじんわりと温かく、床も冷たくなり、朝起きるのが嫌いです。「昼間は陽ざしがつぶり入るので、真冬でも夜遅くまで暖房を入れません。知らないうちに冬でも薄着になっていきますね。以前この家では考えられないことでした」とご主人様が言

かくて、玄関や廊下、トイレなどは寒かったものですが、でも今は、家じゅうどこでも均一の快適温度。結露もありません。これは健康にも良いでしょうね。このように「ファースの家」はとても快適ですが、野菜を保存できる寒冷な場所がなくなってしまうことが唯一の不便。そこでKさんは、(株)近藤建設が施工した他の「ファースの家」例を参考にし、自宅裏に1坪程度の野菜保存用物置を作りました。そこは年中通して5度前後と野菜貯蔵には適温。このように、夏冬60度の外気温差を忘れてしまいそうな、健やかライフを楽しんでいるKさんご夫妻です。